

DEBUT 首長

山梨県にらさき 韮崎市長 内藤 久夫氏

赤ワイン軸に産業・観光振興 子育て環境整え人口増やす

韮崎市 山梨県北西部にあり、人口約3万人。JR中央線の特急が止まる韮崎駅が玄関口。県立韮崎高校は名門校で横内正明・山梨県知事やサッカーの中田英寿氏らを輩出した。日本百名山である南アルプスの鳳凰3山の起点になっている。主要工場は東京エレクトロン山梨事業所。

——無投票当選となったが。

韮崎市は市長が代わる度に保守対保守の激戦が繰り広げられた。私の父も市長だったので、市長選を中学生のころから手伝い、嫌というほど選挙というものを見てきた。地域間競争の激しい今の時代に、小さな市の中で争っている時では無く、団結する「チーム韮崎」を呼びかけてきた。無投票当選になっただけに、より多くの声に耳を傾ける必要があり、謙虚でありたい。

——公約で掲げた政策の中で特に力を入れているのは。

人口減対策だ。即効薬はないが、その基となる産業振興として「赤ワインの丘」プロジェクトを進めたい。山梨のワインは有名だが、実は赤ワインは弱い。市北部の穂坂地区はブドウ畑が多いが、赤ワインを主に生産するメーカーを誘致して、そのワ

イナリーを中心に宿泊、温浴、販売の施設を開設したい。ブドウ農家も高齢化して、耕作放棄地が出始めており、若手の新規就農者に進出してもらうために市も努力したい。穂坂地区は日当たりが良く、富士山などの眺望にも優れており、ワイン産業や観光施設には好立地だ。

横内公明前市長時代に韮崎市はワイン特区に認定を受けている。一定規模以上の生産量がないと認められないワイン生産者が小規模事業者にも認められる。隣接する甲斐市にあるサントリーや北杜市のワイナリーと連携して、ワイン街道を造れないかと思っている。

——子育て世代への対策は。

前市長が整備した200人を保育できる「すずらん保育園」が3月に開園する。木をふんだんに使った柔らかいデザインだ。JR韮崎駅前ビルにある保育施設には市外からも入園者がいる。こうしたハードを生かし、ソフトを充実させていく。例えば保育時間は夜遅くよりも午前7時から早朝希望が多いので、できるだけ応えていきたい。



ないとう・ひさお 1954年山梨県韮崎市生まれ。77年慶応大法学部卒、日立金属入社。80年に家業の段ボール製品製造業、内藤製材所（現内藤）に入社。87年同社社長。2012年から韮崎市商工会会長。14年11月に無投票で韮崎市長初当選。趣味は写真撮影。

——少子化以外の施策は。

「韮崎をほっとする街にした。日本代表として活躍した中田英寿氏の影響もあってサッカーの街という印象が強いが、生涯スポーツとしてウォーキングを推進していきたい。現在は長野県の諏訪市から韮崎まで歩くウルトラウォークを実施しているが、市内で50kmを歩くことに変更する。市内の商業の活性化にもつながる。現在は春に開いているが、他の季節にも開けないかと思っている。こうした施策を通じて、健康寿命全国1位を目指したい。

——民間企業社長の経験をどう生かすか。

市職員は上から目線で、あいさつもしないと評判は良くない。市民にも今後は努力を求めることがあるが、まず市職員が率先しないとだめだ。私も市庁舎の中を歩くルートを時々変えて、職員に声をかけている。

（聞き手は甲府支局長

清水 英徳）